

～人財教育から伸びる企業へ～

# 人の成長こそが 企業・社会の 発展に…

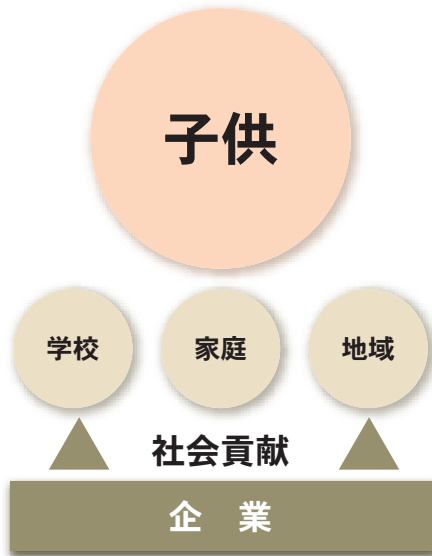


## ◆ 教育CSRとは

CSR (Corporate Social Responsibility) = 「企業の社会的責任」

のうち教育現場への講師派遣・授業用教材の開発・職場体験プログラムの実施など、  
企業が社会を構成する一員として主に教育活動に参加することを『教育CSR』と呼んでいます。

「次世代を育てる」



『教育CSR』への参加は、教育現場や地域社会への貢献となるのはもちろんのこと、会社にとっても大きなメリットをもたらす投資になります。

会社は、従業員・顧客・取引先・地域社会など、関係する人すべてのものであり、それらの人たちの利益に貢献すべきもの、という考え方でCSRに取り組む企業が増えてきています。

人材・技術など自社が持つリソースを使って、自分たちのやりたいことを成し、社会に貢献し、みんなの役に立つこと。

短期的な株主利益を最大化するのではなく、中・長期的な視野で会社の事業や研究開発をとらえ、会社は利益を出すために注力し、これを実現させてくれた社員全員に報い、社会に貢献する。

教育CSRは、「次世代を育てる」という中・長期的な視点を持つ「自社の事業活動で得た収益を使って、公益を行う」新たな事業モデルとしての可能性を秘めていると考えます。

## ◆ 教育CSRが求められる背景

人口減少や国際競争の激化など社会を取り巻く環境が急激に変化する中で、社会で活躍する人材を育成するためには、教育界と産業界がそれぞれの役割と責任を認識し、相互に連携・補完しつつ人材を育てていくことが重要です。

今の学校は学力形成だけでなく、人格形成も期待され、教師は課外活動、生活指導、進路指導も抱え込んでいます。教育を学校だけでなく、家庭、地域、企業が出来ること、本来なすべきことを引き受ける必要があります。

成長段階の子供たちが、「どんな職業があるの?」「どんな仕事かしたいの?」を知るのもキャリア教育の一環ですが、子どもたち

が実際に生きている社会のダイナミズムの中で、政治、経済、現代社会に興味を持つことが社会に出る準備となります。

子供たちが多様化して、かつ、家庭の事情が複雑化していて、とても先生だけで教えられなくなっている状況があり、学校教育が企業から協力を得る意義には、「斜めの関係」の必要性もあり、教科書だけでは実現できない、実社会のテーマにそった良質な教育プログラムを、学校現場は求めています。子供たちが興味を持ちやすいように、インターフェース、入り口を子供たちの身近なところに設定するのも重要です。(子どもの興味のあるもの、身近にあるもの等)